

論文要旨

「駐日女性大使のパフォーマンスに関するジェンダー分析」

グローバルリーダーシップ研究所研究協力員

ベティ・グレース・アケチ=オクロ

本研究は、駐日女性大使のパフォーマンスにおけるジェンダーの影響について調査したものである。筆者は、日本の家長制の文化が、日本に派遣された女性大使のパフォーマンスに影響を及ぼす一方で、女性大使たちがオーバーワークも含めた、効率的に業務を執り行うための方策を編み出す一因にもなる、という仮説を立てた。

アンケート調査および聞き取り調査の結果を検討した上で、次のように結論づけた。第一に、任命された駐日女性大使に対するジェンダー差別がある。しかし、その差別は微妙なもので、表立っては確認できない類のものである。第二に、性差別も確かに存在するが、女性大使はそれらを見做すか、難なくやりすごしている。第三に、女性大使は、差別と日本の男性支配的な文化を認識している。それと同時に、女性大使たちは物事をうまく処理する方策を生み出してきた。例えば、確立された既存の社会規範に疑問を呈しないこと、男性支配的な文化に経緯を払うこと、その場の流れに身を任せること、命令に対し柔らかく相手を敬うような口調を保つこと、忍耐強く、諦めることなく持続的に、しかし巧みに問題取り組むことなどである。第四に、本研究により、他の研究調査結果と同様に、女性大使の大半は、相手に良い印象を与え、彼女たちの認知度、知識、能力、そして才能を示すために、男性の同僚よりも特に精を出して働いていることが確認できた。彼女たちは概してうまく政府を失望させないよう振舞うと同時に、同士である女性外交官らの名誉を毀損しないようにする必要があった。第五に、権威に対する敬意、組織への忠誠心、勤勉さ、信頼性、そして誠実さという日本の儒教的な価値観は、駐日女性大使の効果的なパフォーマンスの発揮を促進することに役立つ。第六に、女性大使は困難でハイレベルな交渉の際には派遣元の政府からのサポートを使用するだけでなく、困難な問題に対してサポートやアドバイスしてくれるような、影響力と専門知識を持つ友人のネットワークも形成している。第七に、女性大使は印刷物、電子メディア、ソーシャルメディアなどのメディアを派遣元の国を宣伝するために使用する。ただし、報道ではしばしば女性が否定的な描写で描かれることを知っており、また、親しみやすさは派遣元の国に対する侮辱または誤解を生むかもしれないという心配もあるので、メディアの使用は控えめにしている。最後に、様々な課題が報告されているものの、日本文化に対して敬意を持っているので、駐日女性大使の大半は非常にうまく対処しており、国の代表者として相応しい働きをしている。